

伝統に生きる

—あらかわの工芸技術—



ちょう 提 灯 ちん

いし い しん いち ろう
石 井 銀 一 郎
(号 大嶋屋)

(平成3年度作品)

16mm映画・ビデオ
カラー・17分

プロフィール

住所、荒川区南千住7-7-2。

大正7年(1918)、東京都生まれ。

平成元年度荒川区指定無形文化財保持者に認定。

保持者の父親・故作次郎氏は浅草の「大嶋屋」総本店で修業し、のれん分けをうけて、明治30年に南千住のコツ通りに「大嶋屋」の看板をかかげた。

銀一郎氏は、18歳のときから父に師事して技術を修得し、この店を引き継いだ。

現在、奥さんのフミ子さんの協力のもと、高張提灯、手丸弓張提灯、長弓張提灯、ぶら提灯、馬上提灯、御所形提灯、祭礼軒提灯、その他注文に応じて、こしらえている。

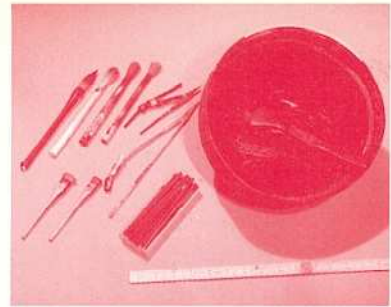
後継者は、長男・一郎氏。

保持者は、東京提灯業組合連合会、提灯技術研究会の要職にあり、伝統工芸技術の保存・継承に果たした功績は大きい。

企画 東京都荒川区教育委員会・製作 毎日映画社

用具・工具

和紙、糊、^{はきみ} 鉢、霧吹き、突張棒、墨、^{すり} 硯、筆、木炭、コンパス(ぶんまわし)、物差し、摺鉢など。



工程——「^{おおがた}大型提灯^{ながかた}長形^{ふとぼね}20号太骨」の場合

- ① 提灯の型に和紙を張る。
- ② 火袋に霧を吹き、和紙のしわを伸ばす。
- ③ 火袋に3本の竹の突張棒を入れて紙を伸ばす。
- ④ ぶんまわしで紋の輪郭をきめる。ここでは、16等分する。
- ⑤ 直線は新聞紙を使い物差しの代用にして木炭で「あたり」をつける。
- ⑥ 紋の下絵を描く。
- ⑦ 目がすり減った摺鉢で墨をする。
- ⑧ 紋を描く。
- ⑨ 文字の輪郭を描く。
- ⑩ 文字を書く。
- ⑪ 飾り付けをして、完成する。



大型提灯長形

利用される方は ☎ **3891-4349**

この記録〈16ミリ映画〉、〈ビデオテープ〉は、荒川区立荒川図書館で貸し出しています。貸し出し期間は、1回5日間です。お気軽にご利用ください。

※16ミリ映画は、団体登録と16ミリ映写機講習修了者が操作することが必要です。